

【公報種別】特許法第17条の2の規定による補正の掲載

【部門区分】第1部門第2区分

【発行日】平成29年12月21日(2017.12.21)

【公表番号】特表2016-501565(P2016-501565A)

【公表日】平成28年1月21日(2016.1.21)

【年通号数】公開・登録公報2016-005

【出願番号】特願2015-540261(P2015-540261)

【国際特許分類】

A 6 1 B 5/0476 (2006.01)

A 6 1 B 5/16 (2006.01)

A 6 1 B 5/11 (2006.01)

A 6 1 M 21/00 (2006.01)

【F I】

A 6 1 B 5/04 3 2 0 A

A 6 1 B 5/16

A 6 1 B 5/10 3 1 0 A

A 6 1 M 21/00 B

【誤訳訂正書】

【提出日】平成29年11月7日(2017.11.7)

【誤訳訂正1】

【訂正対象書類名】明細書

【訂正対象項目名】0 0 2 6

【訂正方法】変更

【訂正の内容】

【0 0 2 6】

例えば、スイッチが、盜難警報器内で、あるいは盜難警報器とともに使用され得る。盜難警報器は、侵入者の侵入を検出するための侵入センサと、侵入センサが侵入を検出したことに応じて、アラームを発するよう構成されたデバイスと、を備え、制御ロジックは、アラームを発するよう構成されたデバイスをオンに切り替えるよう構成される。いく人かの人にとて、遅くにベッドに行く場合、アラーム・システムをオンに切り替えることを忘れるることは問題である。そのような人が、異なる時間にベッドに行く場合、非睡眠依存の時間スイッチを用いることは、不適切なことであり得る。しかしながら、家にいるユーザが眠った場合にアラームをオンに切り替えることにより、この問題が回避される。盜難警報器は、トレーニング・フェーズ中と後続の使用フェーズ中の双方で、複数の人の身体機能をモニタリングするよう構成された複数の代替センサから身体活動データを受信するよう構成された身体データ・インターフェースを備えるスイッチを使用することができる。このように、アラームは、複数の人が眠っていることを確実にすることができます。これは、時間期間と組み合され得る。例えば、システムは、夜の間だけアラームをオンにすることができる。